

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム千鳥苑

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500031		
法人名	社会福祉法人 寿水会		
事業所名	グループホーム千鳥苑		
所在地	岩手県花巻市石鳥谷町大瀬川8-1-1		
自己評価作成日	平成30年11月11日	評価結果市町村受理日	平成31年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kani=true&ji_gyosyoCd=0390500031-00&PrfCd=03&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成30年11月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

苑(施設)は、春には萌える新緑、夏には蝉しぐれ、秋には錦繡の紅葉など四季の移ろいを存分に体感できる葛丸川溪流沿いにあり、四季の移り変わりが実感できます。大自然の環境の中、「温泉水」利用を特徴としております。利用者様には、散歩の際、行き交う地域の方々と挨拶を交わし交流しながら、時には、花や野菜を頂いたりゆったりとした日々を過ごして頂いております。又、家庭的な雰囲気の中で利用者様と千鳥苑畑の成長と収穫にも話が弾み、触れ合いながら交流し、地域の方々やボランティアの方々を支えられながら明るく笑顔で過ごされております。災害時の避難訓練にも力を入れ、利用者様の笑顔を大切に、そして、安心・安全な支援に努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは隣接するケアハウスとともに、当地域の「地域活性化会議」の一員として、夏祭りや敬老会などの様々な地域行事に参加する一方、ホームの行事にも地区民や地域のボランティアが来苑されるなど、交流が盛んとなっている。災害対策においても、地域全体で取組む避難訓練への参加等を通じて地域との協力・連携が深められており、心強く感じられる。重度化や看取り支援については、最期までホームで過ごしたい、すごさせたいとの利用者・家族の願いに応えようと、医療や看護との連携に積極的に取り組みながら重度化した利用者の終末期ケアに努めた。職員は、理念として掲げる利用者の笑顔を引き出すことを心掛けながら、会話・仕草の中から思いや意図をくみ取る努力を重ねており、「職員は話をよく聴き、思いや願いに対応してくれる」と、多くの利用者がアンケートに答えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

平成 30 年度

事業所名 : グループホーム千鳥苑

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔でゆったり憩う家」の理念を掲げ揭示し、自分らしく過ごす時間を大切にしながら、他者(地域の方含む)との関わりの中で、明るく輝きながら過ごして頂けるような支援に努めております。	「笑顔でゆったり憩う家」との理念を玄関等に掲げている。全職員で意識を共有したうえで、利用者の笑顔が見られるよう、各利用者のお話や仕草等を職員が共有しながらケアを心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来るだけ地域の行事に参加するよう努めており、地域の方々から声を掛けられることが増えております。天候や足場が良い時は、できるだけ散歩に出掛け、すれ違う方と挨拶を交わし、交流の場が持たれております。	隣のケアハウスとともに地域自治会に参加しており地域との関係は良好に保たれている。地域の情報紙には当ホームの話題も取りあげられている。今年は市主催の防災訓練にもホームとして参加し地域との連携が深まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	多くの方々に参加して下さる千鳥苑の夏祭り等を通して地域の方々と交流し、「見て、知って、理解して頂く」機会を設けております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での報告や行事を通して、地域の方々に「見て、知って、理解して頂く」機会となり、ご意見やご協力を頂くことでサービスの向上に繋げております。	運営委員には地域の代表者や、民生委員、地域ボランティア代表も参加しており、ホームを「見て、知って、理解して頂く」ことに努めている。定例的な報告事項の他、委員間の活発な意見交換を心掛けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員の方に事業者の実情を積極的に伝えながら、医療連携や推進会議の持ち方、内容等の意見を頂く等、協力を頂いております。	運営推進会議に市地域包括支援センターから参加しているほか、介護保険や医療連携の関わりや生活保護などで、市の地域福祉課とは連絡を密にしている。また、災害対策においては、実地調査の中で丁寧に指導されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	苑内に「身体拘束をしない宣言」を揭示し、身体拘束となる行為等、定期的な身体拘束適正化委員会の開催内容と研修を通して、各利用者のケアの振り返りや見直しを行う等、職員間で意見交換を行っております。	身体拘束適正化委員会を3ヵ月毎に開催し、内容は全職員で共有化している。転倒防止のため、2人の利用者について、ご家族の了解を得てベッド下にセンサーマットを設置している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	支援(サービス)を実施していく上で、身体拘束にあたる行為について確認し合い検討し、適時研修しながら支援内容に工夫しております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について学ぶ機会を持ち相談時には、成年後見制度について説明すると共に、専門機関に相談されるよう勧めております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に本人、家族に説明した後、疑問点やお尋ねしたいこととお聞きし、納得した上での契約と成っております。改訂時等も説明し納得された上で実施しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは、日々の暮らしの中からアンケート調査を実施し、家族からは、面談時や計画書の説明時を利用して意向・意見を吸い上げ、出された意見を運営に反映されるよう努めております。	利用者のお話や仕草から意向等を把握しているほか、毎年利用者アンケートを行って聴きだし、何かの役割が欲しいという希望を叶えたりしている。家族からは現状を維持してほしいという願いが多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティング、人事考課時の面接等を通して、業務が円滑に遂行できるように各職員より意見、思いを吸い上げ改善に努めております。	職員と管理者との個別面談では、個別の介護に関する話題が多く、苦手なケア手法へのアドバイスなどに努めている。今年は、職員から提案のあった防寒対策として玄関とホール間にビニールカーテンを設置している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり、職員が向上心を持って働けるよう意見を聞き助言したり改善にも努めております。働きやすい環境に成るよう希望勤務形態や希望勤務変更、希望休にも答えられるよう柔軟な対応に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人のケアの実践と力量を把握し、苑内での勉強会やその人に合った研修内容に参加して頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員は、認知症高齢者グループ協会花北ブロックでの研修を受け、その後に他施設職員と交流を図ると共に、意見交換することでサービス向上に繋げております。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面接(アセスメント)で心身の状態を把握し、本人の希望や要望をお聞きし、入所後もコミュニケーションを図りながらできるだけ希望や要望に応えられるよう努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前や入所後に生活する上で家族等が困っていることなどをお尋ねし、職員間で情報を共有し、共に生活していきながら苑ではどのような支援ができるか、ご家族と話し合っております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所時に、ご本人の思いやご家族の考え、意見、要望をお尋ねし、ケアの方針を決めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の場をリビング(ホール)とし、皆が揃って会話する中で昔のことをお尋ねしたり、「何か、お手伝いすることはないですか」と尋ねて下さる方、気が付いて手伝って下さる方もいて、利用者を支えられております。又、共に畑作業、草取り、収穫の喜びを味わい信頼関係の構築にも努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にできるだけ多く来苑して頂けるようお話をすると共に、利用者の生活の様子を報告し必要に応じて過去の生活歴をお尋ねし、意見を頂きながら「共に支える」を念頭に連携を図っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人や知人が面会に来苑された時には、居室でゆったりとお話して頂き、関係が途切れないように支援していくと共に、実家に帰省し知人と会う機会、知人と温泉に行く機会、馴染みの美容院の利用、親戚一同・孫の面会が継続的にされるよう支援しております。	利用者へのご家族や友人・知人の来苑者が多くなっている。家族が馴染みのところへ連れ出してくれたり、近くの温泉地に一緒に宿泊する方もいる。行きつけの美容院に出かける方がいるほか、理髪店が定期的に来苑し新たな馴染みもできている。来苑者に再来を促す言葉がけを心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他利用者に目配り、気配りして下さる方、話が弾む間柄、「私、あの人の傍に座りたい」の訴え等に配慮しながら席への配慮等、職員は、利用者がお互い良好な関係が保てるような支援に努めております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了されても、困りごとがありましたらいつでも連絡下さるようお伝えしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と一緒に話し合える夜勤、入浴、食後のゆったりとした時間帯を利用し、思いや意向をお尋ねするよう努めており、利用者の思いや意向の変化についての把握にも努めております。	お話をゆっくりできる夜勤帯や食後の時間などに思いや意向を聴き取るように心掛けている。また、毎年実施する利用者アンケートでも様々な思いや意向が出され、効果を挙げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にお尋ねしますが、把握できなかったことについては、家族等に面会時、日々の生活を通して幅広く情報を得るよう努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のミーティング、引継ぎ、生活日誌の記録、支援経過の記録を通して、身心の状態、変化等を把握し、対応の検討もされております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族にケアの説明をしたうえで、ご希望、要望をお伺いし、ケアプランに役立てております。ミーティングで協議し、看護師、介護職員間で出された意見を反映し、計画作成の見直しに役立てております。	計画作成担当者がご家族の希望も伺いながら計画案を作成し、職員ミーティングで協議のうえ決定している。モニタリングは、利用者の容態変化が多くなっているため、3ヵ月毎にカンファレンスでの検討を経ながら行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日々の生活の様子を生活日誌や連絡帳、支援経過などに記録し更に、申し送りで情報共有し、状況に応じて見直し、サービス内容の追加、変更、改善、計画の見直しに努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院は、ご家族にお願いしておりますが、都合がつかない時には、職員が通院支援を行っております。必要に応じて訪問看護ステーションの利用、福祉用具の選択利用、日常生活用品の購入やお金を預かり支払代行も行っております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	大瀬川地区防災訓練、文化祭への展示・見学、運動会等への参加を通して地域の方々と触れ合い、活動を共にすることで苑では味わえない情緒豊かな支援に努めております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医を継続されている方や、当苑に通院支援をお願いする方もおり、家族の同意を得て通院先を決めております。通院時には、バイタル記録・行動記録。特変記録を共有し、診察の参考にして頂き更に、医師からの意見を頂き支援にあたっております。	入居前からのかかりつけ医の継続受診利用者が多い。受診はご家族同行が基本であるが、希望に沿って職員が同行する場合もある。健康管理は常勤の看護師1人が担当するほか、訪問看護ステーションの看護師も来苑している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の日々のバイタルチェック、一般状態観察を怠らず看護師とオンコール体制を取り、変化時には看護師に相談し指示を仰いでおります。かかりつけ医とも連携を取り、必要に応じて受診し家族への事前連絡も必ず行うようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時には、入院先への情報提供と、入院後は、医療ソーシャルワーカーや家族を通して相談や調整を行っております。普段からの利用者の通院支援を通して医師と医療面の相談も実施しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	望む終末期について、本人、家族と話し合いを持ち、事業者で出来る事、できないことを説明すると共に、早い段階からかかりつけ医師と訪問看護ステーションの方々と連絡・連携を図っております。	利用者本人やご家族に説明し良く話し合いながら、かかりつけ医等との連携体制を構築している。一昨年来重度化していた利用者があり、最期まで関わり看取りに近い経験をしたこともあり、職員間でも意識の共有が図られてきている。	利用者や家族の願いに応えようと、医療連携体制の構築に努めながら終末期ケアに関わり、看取りと近い経験も行なっている。職員は、試行錯誤を重ねながら知識を共有し重度化した利用者の介護に挑戦しており、今後の一層の取り組みを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の備えとして、かかりつけ医師、訪問の看護師、家族との連携を密にしていくと共に、急変時対応マニュアルの定期的確認を実施しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は、通常の防災訓練の他に、大瀬川地区防災訓練に参加。花巻市主催による洪水や土砂災害を想定した訓練であり利用者と共に避難の他に、土砂災害シュミレーション説明を受け、応急救護訓練・消火訓練・炊き出し訓練を体験しました。	今年度は市主催の総合防災訓練が同地区で開催され、ホームとしても参加したことで今後役に立つシュミレーションにもなった。葛丸川に隣接して立地し洪水被害が懸念されるが、隣接する鉄筋3階建てのケアハウスへの避難を、消防当局からも指導されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ利用時、入浴時、食事等における言葉かけへの配慮。利用者との会話中の言葉づかいについても丁寧に話されるよう朝のミーティング等を利用し職員間で話し合い、声掛けし合うように努めております。	トイレの利用時や入浴の際等には、職員は利用者の羞恥心に配慮した言葉かけに配慮している。言葉での誘導が難しい場合には、職員がジェスチャーで示して誘導することも多くなっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思決定ができるように伝える言葉を選択し相手に伝え、耳の聞こえが悪い方には、口話・ジェスチャー・補聴器、白板等使用しながら自己決定がなされるよう働きかけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事とおやつ以外は、自分の好きな場所で生活して頂いております。自室でテレビを見られる方、自室で大きな声で歌を歌われる方、ロビーで過ごされる方もおります。天候とも相談しながら散歩の予定を入れたり余暇の内容を相談したりしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気候や気温に合わせて職員と一緒に服を選ぶこともあります。重ね着や着衣失効時、さりげなく言葉をかけ、直して頂いております。理髪を町内の理髪店にお願いしておりますが、パーマ、毛染め、顔そり等を利用される方もおり、お尋ねしながら行って頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜、果物の生育・収穫に携わり、テーブル拭き、「戴きます」のご挨拶等それぞれの役割を持って行っております。千鳥苑畑の収穫時は、野菜、果物を食事に摂り入れ共に成長を楽しみ、味わい、かみしめながら楽しい食事時間としております。	献立・調理は職員が交代で行っている。利用者の中には野菜の下処理を手伝う方もいる。ホームの畑で採れた野菜も食材として活用しているほか、誕生会などではちらし寿司などの特別メニューを楽しんでいる。食事は全員が美味しいとアンケートに答えており、みそ味のラーメンを所望する方もいたとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	義歯の無い方や自歯欠損の方には、刻み食、ミキサー食等で提供しております。味付けは薄めし、糖尿病をお持ちの方には、小分けして水分補給に努め、栄養士からも意見、助言を頂く機会を設け食材に反映し提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方には、言葉がけのみの支援を行い、出来ない部分のみ支援しております。義歯洗浄も就寝前に必ず行っております。必要に応じてハミンググットを使用し口腔ケアに努めております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、利用者の意思表示、排泄パターン、排泄リズム、表情を汲み取ることで、トイレでの排泄回数も増え、パット使用削減に繋がっております。	現在、オムツ使用者はおらず、全員がトイレでの排泄となっている。布パンツ使用が1人で、他はリハビリパンツ使用となっている。トイレ誘導が頻回となる方もいるが、適時の誘導を行うことにより排泄の改善に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認表に基づき排便を管理し又、便秘対策として毎日の乳酸菌飲料の摂り入れ、腹部マッサージや運動(歩行・軽体操)等への働きかけを行っております。個別に水分補給にも取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、その日の体調、お気持ち、意向に柔軟に対応しております。「温泉水」が好きな方が多く、温泉の効能をお話し、コミュニケーションを図りながら勧めております。	週2、3回の入浴を基本として介助している。天然温泉ということもあり、長い時間の入浴をしたがる方が多くなっている。入浴介助を通じてコミュニケーションを図るよう心掛けている。同性介助の希望者は、現在はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせて無理強いない入眠支援に努め、就寝の際は、更衣介助等実施。悩みに傾聴し、安心して休んで頂けるよう寝具や照明の調整支援を実施しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れがないように適時提供に努めると共に特に、薬内容に変更があったり追加された時には、薬内容の把握、状態把握に努め、必要に応じて医師に報告し調整して頂いております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリ(洗濯物たたみ、寝具類交換、テーブル拭き、新聞たたみ、花菜の管理、ゴミ投げ等含む)を通して、個々に役割を持って頂いております。好きな歌を皆で歌ったり、利用者間の交流、時には大好きなコーヒーを片手に物思いにふける時間が確保できるよう支援にも努めております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の意向をお聴きしながら外出支援を行っております。四季の変化を感じて頂くと共にリフレッシュの機会でもありますし、筋力低下防止の為に近隣を散歩したり、車で遠方に出掛けるよう努めております。地域住民の方々や家族よりご協力を頂き、外出範囲が広がっております。	従来は近所の散歩を楽しんでいたが、最近では周辺の山からのクマ、イノシシの出没情報が多くなり控えるようになった。地域の行事に出かける機会が多いほか、市内の鳥谷ヶ崎公園や葛丸ダム周辺へのドライブ等を楽しまれている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いの所持はせず、日常生活用品や必要物品が不足した時には、家族に連絡して補充購入して頂くか、苑で立て替えて購入することも有ります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話やお手紙のやり取りが困難な方が多く、本人の希望時には、知人との取次ぎ支援や戴き物のお礼の電話の取次ぎ支援を行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活導線の環境整備に努めると共に、中廊下、食堂兼ロビー、トイレ、行事用広場は広く、天窓からは明るい陽射しが入るように成っており、その続きの和室には、炬燵とテレビが備わっております。夏には、窓に遮光ネット、冬は、カーテン使用も多くし、室温変動に配慮しております。戴いた花や季節感を感じる作品等を飾り、季節を味わっております。	食堂を兼ねた広いリビングで利用者がくつろいでおり、冬季には玄関との間に防寒のための仕切りカーテンが設置されている。壁面には利用者も一緒に作成した季節感のある作品や塗り絵などが飾られ、温かみを感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	希望を伺い座席を配慮し、気の合った利用者との交流をしたり、好きな時間に『やりたいこと』が出来るよう配慮しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	愛用されていたくつろぎの椅子やテーブル、テレビ、時計、家族の写真等を持ち込むなどし、居心地良く過ごして頂いております。ご自身で居室に花や作品を飾り居心地の良い空間に作り上げていらっしゃる方もおります。	各居室にはベッドや洗面台、クローゼットが備え付けられ、利用者は個別にテレビやテーブル、イス、家族写真、手作り作品などを持ち込んで過ごしている。室内の掃除は職員が行っているが、ベッドメイキングを手伝ってくれる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室が分からなくなる方には、表示・目印や名前を居室入口前に貼ったり等の工夫をし、ご自身で行き来ができるように言葉かけ支援の継続も行っております。		